

ストック 一本立ち系、カルテットシリーズ

学名 *Mattiola incana* / アブラナ科(大根の仲間、コナガに注意)
 和名 あらせいとう
 原産国 地中海沿岸



開花特性・・・低温にあうことで花芽分化。早晚性により低温の温度は変わります。

開花期・・・春

栽培環境・・・生育適温 15～20℃。水は好みますが、高温、湿気を嫌います。

増殖方法・・・種子(種苗会社からの購入)

占有期間・・・約4ヶ月

1aあたりの標準播種量・・・一本立ち60～80ml、カルテット50ml(5袋)

1aあたりの植え付け本数・・・一本立ち(坪157～189本)、カルテット3,000本(坪90～100本)

1aあたりの採花本数・・・一本立ち3,768～4,536本、カルテット2,400本(ロス率20%)

播種

10ml・・・2,600粒入

種子休眠・・・ほとんどありませんが、青色、パープル色系にでる場合があります。新種を使う場合は注意します

発芽温度・・・20～25℃ (25℃以上は発芽率低下)

覆土・・・種子の隠れる程度です。

カルテットシリーズは極早生一本立ちよりも7～10日早く播きます。

プラグ苗又は箱蒔きします。

灌水は底面吸水が良い。病害虫も少なくて済みます。

播種後、3～4日後に発芽してきます。

八重鑑別には、八重を選んで定植する方法と、一重を間引いておいてから定植する方法があります。

★直播き栽培

育苗労力を低減できます。

畝をよく平らにし、一カ所3～4粒ずつ播種します。

又はシーダーテープを使うと楽です。砂壤土が適します。

直播きは均一な発芽をさせないと八重鑑別が難しくなります。

①均一な灌水。

②適正な発芽温度を保つ(20～25℃)

遮光設備等を使用して環境を整えます。

施肥体型を元肥主体から追肥主体にします。

発芽後八重鑑別を行います。発芽した3～4本の中から1本八重を選びます。

定植

定植時期・・・播種後22～23日後

定植間隔・・・一本立ち 12×10～12cm 定植8条植

通路幅60cm / 坪157～189本

カルテット 15×15cm 定植、8条植、通路幅60cm / 坪95本

畝・・・定植間隔に準じます。

ネット・・・1段 大きさは定植間隔に準じます。

マルチ・・・基本的になし

定植は断根しないように注意し、浅植にします。

高温期の定植は活着の為5日間～1週間ほど遮光

八重鑑別 “八重鑑別は発芽揃いで決まる!”

通常ストックの種子は、出荷可能な八重種と出荷できない一重種が混ざっている(55:45=八重/一重)ので、定植前に八重鑑別という作業が必要です。

八重鑑別のポイント

	八重	一重
発芽	早い	遅い
生育状態	良い	悪い
子葉の形	だ円、卵形	円形
葉柄の長さ	長い	短い
葉色	薄い	濃い
葉の欠刻	多い	少ない
草丈	大きい	小さい
子葉の面積	大きい	小さい

具
体的方法

	播種後	残存株率	八重鑑別の方法
1 回目 予備鑑別	7~8日	50 ~ 55%	一重株を抜く。①発芽が遅れたもの。②奇形葉(ラッパ葉)を抜く
2 回目	12 ~ 15日	25 ~ 27%	八重株を残す。 ①双葉の子葉は、子葉が長く、大きいものを残す。②子葉が一つのものは、子葉が大きいものを残す。③子葉の葉色が淡いものを残す。
3 回目	22 ~ 23日 定植時	23 ~ 25%	本葉が小さく、生育の悪い苗を定植しない。

八重率 90%以上を目指してください!

肥料

元肥・・・N-P-K、1.5~2.0-1.5~2.0-1.5~2.0/a

リン酸は全量。その他は 2/3 を元肥とします。カリを切らさないように注意します。

pH6.5 EC 0.4

追肥・・・定植から 2 週間後。その後は適期に。

作型

寒高冷地

促成栽培・・・10~12月出荷、7月上旬~8月上旬播種。7月下旬~8月下旬定植。

栽培管理・・・加温なし

適正品種・・・極早生、早生品種

暖地、中間地

促成栽培・・・12月出荷、8月上旬播種。8月下旬定植。

普通栽培・・・11~12月出荷、7月下旬~8月中旬播種。8月下旬~9月上旬定植。

普通栽培・・・1月出荷、8月下旬播種。9月中旬定植。

栽培管理・・・無加温、加温

適正品種・・・極早生、早生品種

暖地、中間地

抑制裁培・・・1~3月出荷、8月中旬~9月中旬播種。9月上旬~10月上旬定植。

栽培管理・・・無加温、加温

暖地、中間地

抑制裁培・・・3~4月出荷、10月上旬~11月上旬

播種。11月上旬~12月上旬定植。

栽培管理・・・無加温、加温

適正品種・・・中生、晩生

寒高冷地

抑制裁培・・・5~6月出荷、1月下旬~2月下旬播種。2月下旬~3月下旬定植。

栽培管理・・・無加温、加温

適正品種・・・極早生、早生

出蕾期以降は、気温を下げて間延びを抑えます。

摘心 (スプレー品種)

側枝の発生を確認後、頂花を摘心します。

早く摘心すると側枝を伸ばすことができます。

頂花のつぼみが色づいて来たときに摘心する方法もあります。そのころ摘心した方が側枝は揃います。

側枝がたくさん出てきたときは、整理します。

出荷する市場によりますが、4~5本に整理します。

灌水

灌水は葉が茂るまで充分与えます。不足すると草丈が伸びず、小花数も減少します。茎立ちしてきたら徐々に、灌水を少なくし、絞めていきます。出蕾期以降は締めて花穂の間延びを抑えます。

カルテットシリーズの灌水は、生育を見ながらですが、後半までやや多めにして側枝をのばします。

カルテットシリーズは側枝が堅いので、伸ばし気味にした方が評価は出ます。

病虫害

病名 / 症状 / 対策

◆金核病 / 発蕾期に発生しやすい / 多湿を避ける。
トップジン M1,500~2000 倍

虫害 / 対策

◆コナガ / 一番問題。初期防除に勤める。ピノエース(スリップス、マメハモ、アオムシにも効く)、コテツ

お勧めは捕殺です。(別紙)

◆シンクイムシ / コナガと同じ防除。

出荷

切り前は時期により変えます。

高温期...3~4 輪咲き

低温期...5~6 輪咲き

クリザール K-20C 等の STS 剤で水揚げします。